

希望の明日

2007年12月29日 2号

生存権裁判を支援する北海道の会

事務局：北海道生活と健康を守る会連合会

札幌市西区八軒8条東5丁目4-20

TEL (011) 736-1722

FAX (011) 736-1688

メール：doseiren@joy.ocn.ne.jp



札幌市での地裁前集会。前列が当日参加した原告の5名。左から、佐賀光江さん、佐藤雅恵さん、川口美幸さん、七尾真美さん、菊地繭美さん



釧路での地裁前集会。左から2人目が、原告の成田純子さん

十二・二一札幌と釧路で裁判を提訴

二〇〇七年の年の瀬の12月21日、生活保護の母子加算削減の取り消しを求めて、北海道で九人のお母さんたちが裁判を起こしました。いよいよ、これからが本番です。頑張りますよ。

〈札幌〉寒風の中、100人近い支援者が集まり、地裁前での集会が行われました。原告8人の内、病気などで参加できない3人を除いて5人が参加し、原告を代表して菊地繭美さんが「ついに今日を迎えました。何年かかるか分かりませんが、宜しくご支援お願いします」と力強く、訴えました。副代表の高田哲さんが「朝日訴訟から50年目の提訴であり意義深い。最後まで奮闘しましょう」と呼びかけました。

〈釧路〉北見市在住の成田純子さん(38才)は一人、釧路地方裁判所へ提訴しました。風の冷たい裁判所の前で、成田さんを支援する集会が開かれました。30名以上の支援者が集まり、テレビカメラを含む報道陣も多数詰めかけました。

原告の成田純子さんは、「春から一気に生活が苦しくなり、節約にも限度があります。将来、子どもを高校に入れられるのか不安で、夜も眠れない日があります」と支援を訴えました。